

香川の医療最前線

490

四国こどもとおとなの医療センター
小児循環器内科医長

大西達也氏



◎おおにし たつや 2004年徳島大医学部卒。同大医学部小児科特任助教、四国こどもとおとなの医療センター小児循環器内科医師などを経て17年4月から現職。小児科専門医。小児循環器専門医。超音波専門医。心エコー図認証医。日本先天性心疾患インターベンション学会役員。三豊市出身。40歳。

左心房と右心房を仕切る

心房中隔に穴が開いている疾患「心房中隔欠損症」。重症化すると心不全や不整脈を合併する可能性がある。

治療法には外科手術とカテーテル手術があり、県内で唯一カテーテル手術の学会認定を受けているのが四国こどもとおとなの医療センター。同センター小児循環器内科の大西達也医長に心房中隔欠損症のカテーテル手術について聞いた。

生まれつき心房中隔に欠損孔(穴)が開く疾患。大きさが6ミリの場合は治療を要する可能性が高くなる。この疾患は欠損孔に左

心臓から右心房に血液が流入することで、右心房と右心室に負担がかかり、30歳代から息切れや動悸と40歳代から息切れや動悸と外科手術が一般的だが、近

治療法は。胸部を15センチほど切開し、

心臓から右心房に血液が流入することで、右心房と右心室に負担がかかり、30歳代から息切れや動悸と40歳代から息切れや動悸と外科手術が一般的だが、近

心房中隔欠損症の治療

カテーテル手術が増加

傷残らず入院期間も短縮

どのような場合にカテーテル手術が受けられる。

原則体重が15キロ以上で、欠損孔の大きさが38ミリまでである必要がある。心房中隔欠損症と診断されたら、経食道心エコーで心房中隔を観察しながら、大腿部を5センチほど切開して心房中隔に心臓カテーテル検査を行う。続けて経食道心エコー検査をして、欠損孔の大きさを確認し、カテー

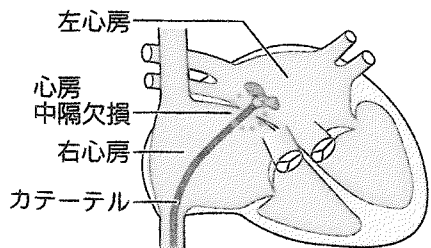
いった症状が現れる。重症化するすると肺高血圧症を発生する危険性もある。発症頻度は新生児千人当たり1.5人程度と言われ、小児では、乳幼児検診での心雑音や学校心電図検診での異常などが発見の端緒となることが多い。

カテーテル手術の適応があるかを判断する。合併症のリスクが危惧される位置に欠損孔が開いている場合は、カテーテル手術はできない。

カテーテル手術のメリットは。最大のメリットは胸に傷が残らないことだ。また、入院期間は外科手術が2、3週間なのに対し、この手術は7日。さらに、手術の翌日から普段通りの生活を送ることができる。デメリットは、外科手術と比べて歴史が約30年短いため、その間の治療予後が不明瞭であること。だが最新の論文報告では、外科手術とカテーテル手術の治療効果と合併症率はほぼ同等と報告さ

同センターは2013年度に心房中隔欠損症に対するカテーテル手術の施設認定を受けており、年平均5件の手術実績がある。ほかの疾患も含めた心臓カテーテル手術の昨年の件数は約70件。積極的にカテーテル手術を行っており、件数は年々増加している。高知県や徳島県など県外からも患者を広く受け入れ、四国の小児心臓病医療に貢献でき

■心房中隔欠損症のカテーテル治療



るよう取り組んでいる。

■ 四国こどもとおとなの医療センター
小児循環器内科
医師3人で治療に当たる。川崎病、肥大型・拡張型心筋症、不整脈など多岐にわたる疾患を診断・治療している。
所在地：善通寺市仙遊町2-1-1
電話：0877(62)1000
https://shikoku-mc.hosp.go.jp/section/c_circulat.html